

J **apanese text**

2018年 春/夏号 日本語編

デザイン

デザインラボ

プロダクト
—— 吊るして慈しむ植物の造形美

写真=鈴木一彦 (Banepa)、西山航 (TSUBAKI)
スタイリング=横瀬多美保 (Banepa) 文=阿部聖子、白川愛子

p.059

芸術的な造形の美しさを持つ「ラン」。その根の先までを「美」ととらえた「ボタニカルハンガー」が誕生。生みの親はプロダクトデザイナーとして国内外で高い評価を受ける板坂 諭さん。名古屋のフラワーショップ「Banepa」で販売されている。写真のハンガーは卓上に向く高さ70cm（1万3500円）。他に、床置きに向く高さ160cm（2万2500円）のものも。ランは別売りで、大型のバンドは約1万2000円、小型のオンシジューム（写真）は約4000円が目安。「旬のランをベースに、根を整え支柱をつけ、美しい姿にしてお届けします」と「Banepa」オーナーの渥美由香里さん。

まるで小さな山が一つ浮かんでいるような、不思議な植物の群生。「TSUBAKI」の宮原圭史さんがプロデュースする「OYAMA」シリーズは、鎖が芯となる鉄につながっていて土や水苔の絶妙な配合で、崩れないよう設計されている。写真の「崖」（幅70×高さ90cm、重さ約10kg、13万円）はモミジ、ヤマアジサイ、ユキノシタなど約14種類の同質の環境を好む植物が植えられ、共生していく仕組み。「落葉する植物もあり手間はかかりますが、一緒に生きていく感覚を楽しんでほしい」と宮原さん。自宅の環境や好きな植物を伝え、オーダーメイドで製作可。納期は約2か月。購入後のメンテナンスも相談できる。

生きた芸術と暮らす喜びが始まる。

TSUBAKI

東京都目黒区八雲 4-3-5

来店の際は事前予約を。
contact@tsubaki-tokyo.jp
www.tsubaki-tokyo.jp

Banepa

愛知県名古屋市千種区千種 1-23-3
12時～18時30分
日曜・月曜・火曜定休
vert@banepa.jp
www.banepa.jp

文様
—— 視覚化された勝負

文=原 研哉
撮影=西山航

p.060

日本の将棋の駒は独特の形をしている。先細りで切っ先の尖った形が、黒々とした墨書を背負ってずらりと盤上に並ぶ様は確かに戦の陣形に見える。

碁盤や将棋盤のように、四角を升目に区画し、相対する陣に分かれて勝負をする戦争ゲームは洋の東西を問わずある。チェスの駒が彫刻的・具象性に富んでいるのに対し、将棋の駒はいかにも平面的・概念的だ。一番弱い歩兵が、相手の陣に攻め入ると、裏返って金になるというのも、表裏のある駒あつての妙味である。先陣の功を競うサムライの心理とゲームの機微が一体化していて興味深い。

ここで紹介している将棋の駒は、とてもユニークなもので、駒の動きを可視化した図像が駒の上に配されている。確かに駒の動きが一目瞭然で便利だが、さらにそれぞれの駒の効き筋が見やすく、勝負の趨勢までもが視覚化されているようで面白い。動きが独特の桂馬など、その図像化の工夫に思わず微笑んでしまう。文字とは異なる美しさを備えた駒のデザインである。

原 研哉 (はら・けんや)

デザイナー。「もの」のデザインと同様に「こと」のデザインを重視して活動中。ものの捉え方や価値観を更新するプロジェクトを多数手がける。長野オリンピックの開・閉会式プログラムや、愛知万博の公式ポスターなど日本文化に深く根ざした仕事も多い。2002年より無印良品のアートディレクター。2017年にオープンしたJapan House プロジェクト総合プロデューサー。著書に『デザインのデザイン』、『白百』ほか多数。
www.ndc.co.jp/hara/

将棋 (しょうぎ)

ルーツはチェスなどと同じく、古代インドのチャトランガというゲーム。9×9の81マスという盤上で、40枚、8種類の駒で勝負を行う。形はかなり初期の段階から今と同じく五角形だったもよう。一見すべて同じサイズに見えるが、よくみると微妙に大小があり、王将(チェスで言うキング)が最大。

駒が相手の陣地まで入ると裏返って強く(時に弱く)なることも特徴のひとつだが、それ以外に、取った相手の駒を自駒として再利用できることが他のチャトランガルーツのゲームにはない独自性である。このため、終盤まで手に汗握る戦いが続く。

今回、手前の陣にオリジナルの将棋駒(漢字を使用したもの)、奥の陣地に最近デザインされた「大明駒(たいめいこま)」を対局させた。大明駒は、それぞれの駒の動きを可視化してデザインし、一見したところ分からない駒の効果範囲が一目で分かるため、初心者にはやさしい駒になっている。

写真のツゲ(2万5000円)のほか、オノオレ(1万5000円)、カエデ(9000円)製のものもあり。

www.fundament.jp

竣工した。

コンクリート打ちっ放しの2層構造の建築は、「グラビティ・フロー」という重力を利用した製法など、ワインづくりのための機能が形になっている。上階に収穫したブドウの搬入口や作業場を設け、下階に醸造と貯蔵のスペースとワインの搬出口がある。上階には、ブドウ畑が一望できる、見晴らしのよいショップもある。ワインにとって最適な温度と湿度を確保する目的もあり、開口部を広く取って風の通り道にしている。

設計したワンダーウォールの片山正通さんは、岡山県出身のインテリアデザイナー。30年近い歳月、ヨーロッパ、北米、アジアなど、世界を舞台に仕事をしてきたが、ふるさと岡山での仕事は今回が初めてだったという。オーナーの、ワインづくりにかける真摯な情熱に動かされた。「何度も現場に通ううちに、空気の清々しさや空の高さ、食べものの美味しさ、そうした岡山の自然の素晴らしさをあらためて感じました」。その魅力をダイレクトに感じられる場所にしたいかったという。ワイナリーには、ふるさとへの感謝とエールが込められている。

標高400mの高台にある畑は、石灰岩の土壌、長い日照時間と寒暖差のある気候に恵まれ、ワインづくりに適した良質なブドウを栽培することができる。「domaine tetta」は、ブドウの栽培から醸造まで一貫して行い、上質なワインをつくりたいという、オーナーの思いが結実した場である。

domaine tetta

岡山県新見市哲多町矢戸 3136

Tel. 0867-96-3658

ショップ 営業時間：11時～16時

定休日：月曜、火曜(祝日の場合は営業)

tetta.jp

建築

—— 風と光のなかに佇むワイナリー

写真＝阿野太一

文＝佐野由佳

p.062

どこまでも広がるブドウ畑のなかに、大切に置かれた贈り物のように、「domaine tetta」のワイナリーはある。ブドウの産地である岡山県の北西部、新見市哲多町に2016年夏に